兒雷也豪傑譚（じらいやごうけつものがたり）

上の巻　廿六篇

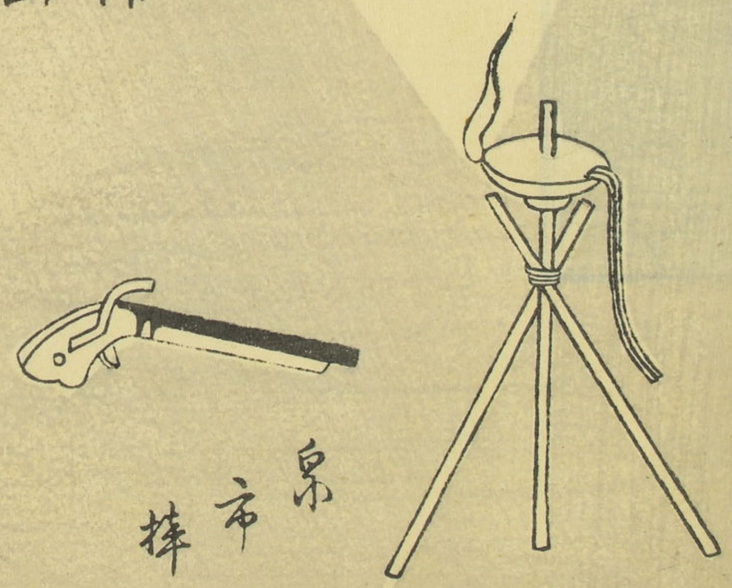
へ13
3878
71

門 へ13
號 3878
巻 71

兒雷也豪傑譚

上巻

柳下亭作
一壽斎画



泉市
梓

兒雷也豪傑譚序

漢土の杜元劉い左傳の癖あり王福時い子と譽癖ありて
和朝ゟ時平公ゟ笑癖ありて己ゟ遲筆乃癖あり
せと詠たまひしゝゟ哥乃繁よりけ熟思べ一季ゟ三
癖あつく書房ご催促の
十種五十種を著作本吏い凡庸あらぞ鬼神欣天狗
狐妖怪欣注連ご飾ゟ橙ご正月東西と鬻ある年
の市ごゝゟ豎年ゟとゝの市迄延つゞけ考通ふ腹匠でも
十種無ゝ爭覚束無ふゝのゟ先ゟ匠の達筆やと自短才い省
で他のゝ頻ゟ羨いまゟ是愚痴め癖有とゝふべし

安政己未閏端

柳下亭種員記

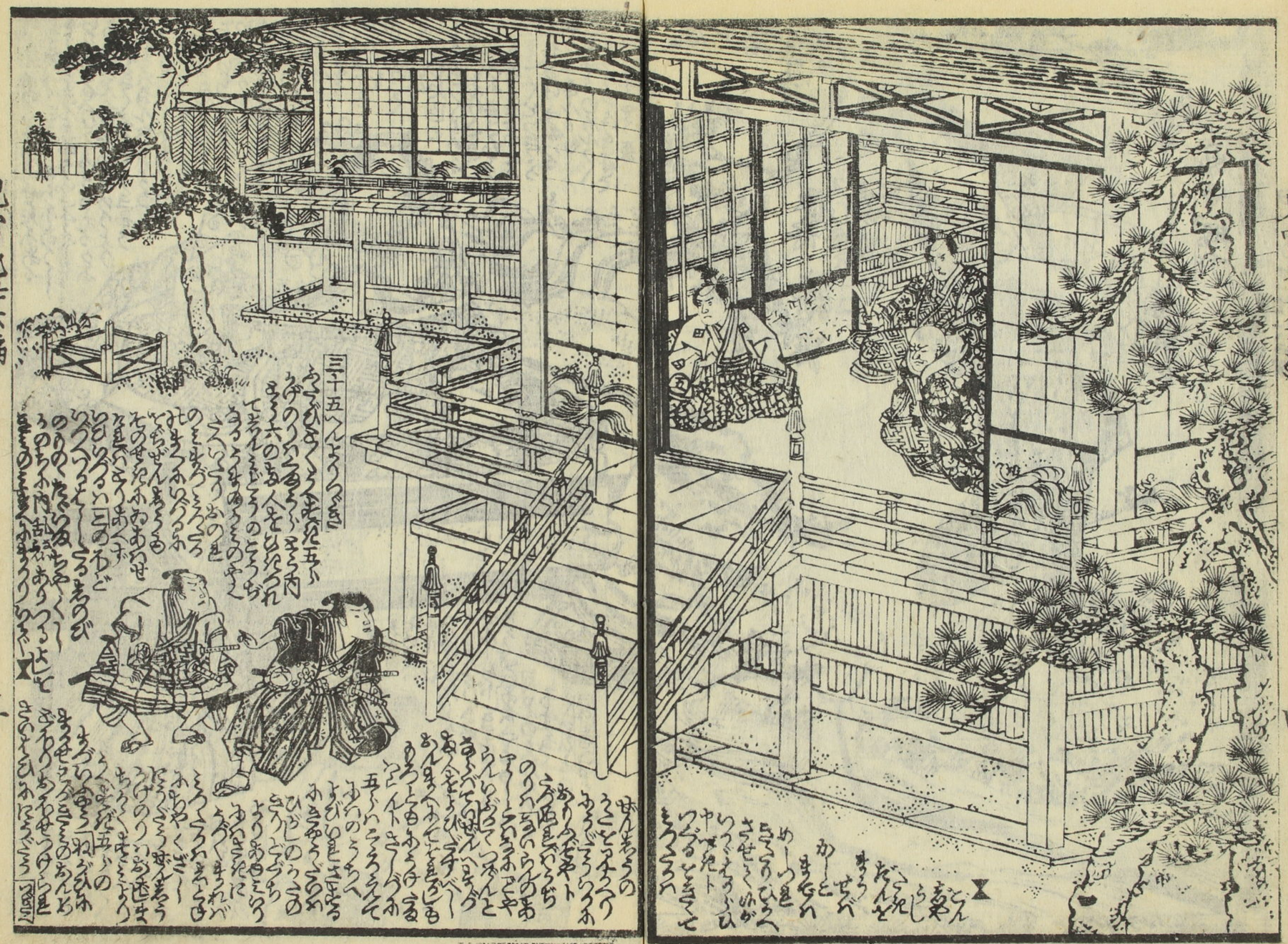
俠客
夢蝶兵衛
千代尾
今市全右エ門

美濃屋三勝

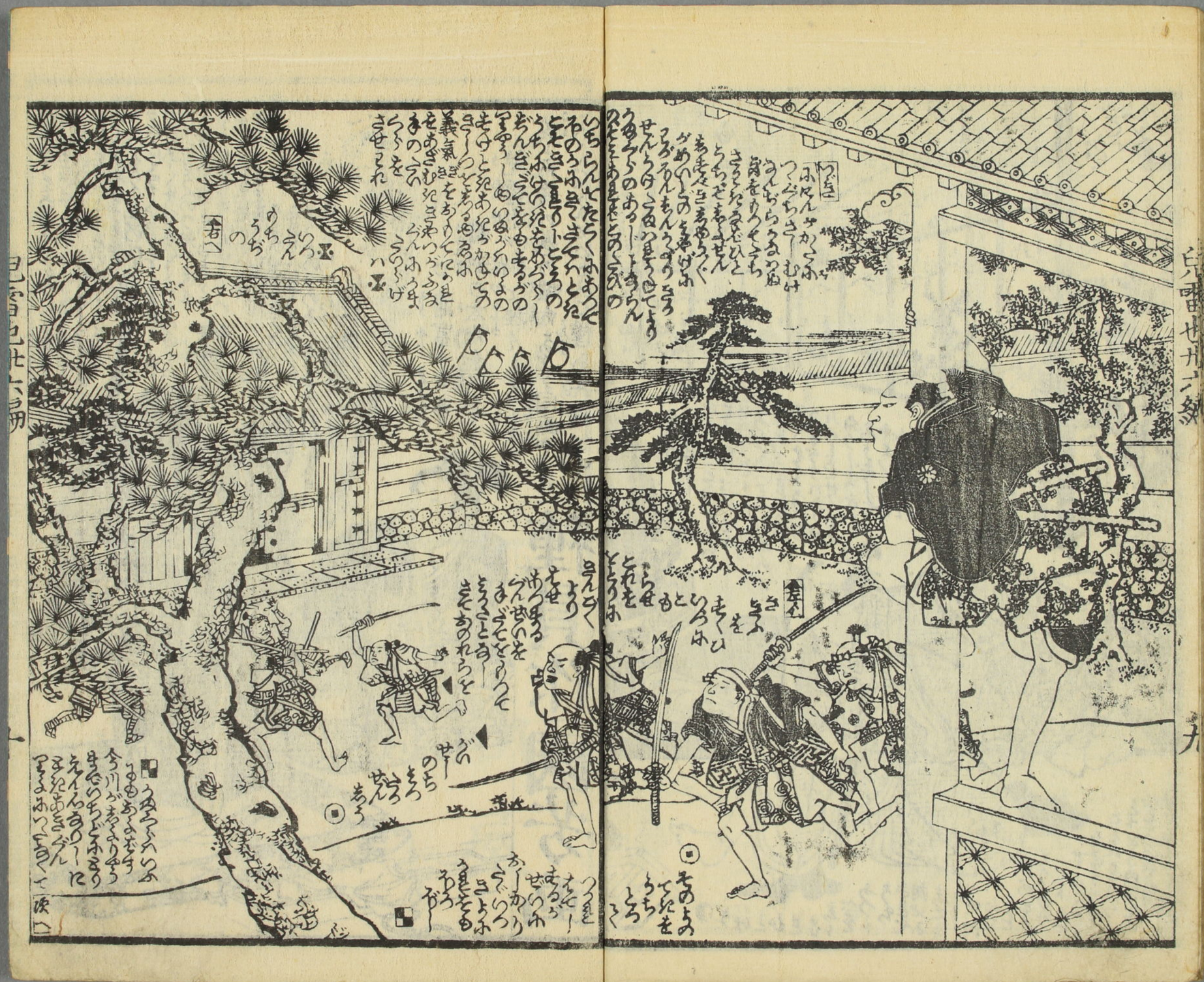
蛣蝓仙人
蛣蝓丸乃短劍
大蛇を退治也
兒雷也

男婦綱手

高砂男見之助義住



是より巻下五丁
の画の兒雷也が
謀計ゆえ限浦
兄弟ゴ虚談の
物語と出せろ



つぎ さつきとぎつかそのつんまたびそうどいらさつ
たづんどのてくせのーふさせあつまるふぐくの
ぐんぜいいちのびくにてくひとくさいそ
ひろぐそくてとせまびたいのうのき
も〜めふまづまるろぐを
うちとらんさこのひろめを
がらじるるふふををようやそうま
ざけあくまでちいくりつみーハ
まんらざうのつ兒のえん
ちでのかどでとつやちふで
ちふぐちまふまやうぐハ
さけふいのちをろだつを
さうぐをそまつふちりのろ
うこのしーもちろ
ささせんもやうさろも
ちうどりのふいちるも仲秋十五日
月下ゆのちもとうくもく

三の巻へつづく

○浦富士兄弟
難形の太刀を以て
兒雷也が術を挫んとする曳
あとの後の巻の趣向あづう同画ちうか
永くつづうんとひて僅ふ其畜を出ス

種員作　國芳画

一兒雷也豪傑譚　四拾七篇

一一休草紙　拾五篇

一風俗淺間嶽　拾四篇

一黄金水大盡盃　拾七篇

書肆
地本問屋
芝神明前
和泉屋市兵衛
銀座四丁目
同支店